

森林「周辺域」における地域ガバナンスの構造的可能性—南インドの事例から— Regional Governance of Forest and its Fringe - case of South India -

木本 浩一^{1*}; S. アルン ダス²
KIMOTO, Koichi^{1*}; S., Arun das²

¹ 広島女学院大・国際教養, ² マイソール大・地理
¹Hiroshima Jogakuin University, ²University of Mysore

近年、森林問題は世界的な規模で「整理」されつつある。深刻な森林減退という「事実」と適切な保護の「必要性」とが国際的な世論となって、各国・地域において政策の大柱となり、その中で各種の施策が実施されている。1980年代後半に顕著になった、木材生産を目指す森林ガバメントから「地域住民の参加」を柱とする森林ガバナンスへの急旋回は、そうした傾向の端緒であったと言える。1990年代以降、各地で住民参加型の森林管理が喧伝され、森林の現状分析から、政策論、海外援助に関する研究、コモンズ論などの理論研究、多彩な研究業績が蓄積されてきた。

インドにおいては、1990年代に本格化した共同森林経営 (Joint Forest Management: JFM) が注目され、森林率において一定の「回復」をみせている。しかしながら、1990年代後半からは、野生動物問題や土地獲得競争などの諸問題が噴出している。確かに、JFMのもと、森林率の回復といったマクロ・レベルや、住民の参加といった村落 (ミクロ) レベルでの活動の「改良」には一定の成果を認めることができるかもしれないが、一方で、森林およびその「周辺域」を含む森林「地域」における諸問題が看過されている。森林政策の「成功」が、森林「地域」における諸問題を惹起しているとも言える。

仮に、今後とも住民参加型の森林経営が進んでいくとしても、森林「地域」の問題は固有の枠組みで検討されなければならない。森林が「国立公園化」や法的・物理的な囲い込みによって「純化」するに従って、その周辺には都市化におけるスプロール現象のごとく無秩序な (ドーナツ状の) 区域が現出する。

本報告では、これまでの南インドでの調査を踏まえて、森林「地域」の特性およびそこにおける諸問題を概観したい。

キーワード: 保護区, 国立公園, 地域, ガバナンス, インド

Keywords: Protected Areas (PAs), National Park, Region, Governance, India